

# 2026年3月期 第2四半期(中間期)決算短信〔日本基準〕(非連結)

2025年10月31日

上 場 会 社 名 TDSE株式会社 上場取引所

コード番号 7046

URL http://www.tdse.jp 代 表 者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 東垣 直樹

問合せ先責任者 (役職名) 管理本部長

(氏名) 田中 秀幸

(TEL) 03-6383-3261

半期報告書提出予定日

2025年11月14日

配当支払開始予定日

決算補足説明資料作成の有無 決算説明会開催の有無

:有

: 有 ( 機関投資家及び個人投資家向け )

(百万円未満切捨て)

1. 2026年3月期第2四半期(中間期)の業績(2025年4月1日~2025年9月30日)

(1)経営成績(累計)

(%表示は、対前年中間期増減率)

	売上高	売上高 営業利益		経常利益		中間純利益		
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期中間期	1, 415	11. 9	42	△47. 2	46	△40.8	31	△40. 2
2025年3月期中間期	1, 265	1. 5	80	△30.1	79	△32.7	52	△34. 7
	1株当たり 中間純利益	Ė	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益					
		円 銭		円銭				
2026年3月期中間期		15. 07		_				
2025年3月期中間期		25. 29						

(注)潜在株式調整後1株当たり中間純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## (2) 財政状態

( = ) ) )			
	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年3月期中間期	2, 682	2, 227	83. 0
2025年3月期	2, 731	2, 209	80. 8

(参考) 自己資本 2026年3月期中間期 2,226百万円 2025年3月期 2,208百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金						
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計		
	円銭	円 銭	円銭	円 銭	円 銭		
2025年3月期	_	0.00	_	10.00	10.00		
2026年3月期	_	0.00					
2026年3月期(予想)				10.00	10.00		

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2026年3月期の業績予想(2025年4月1日~2026年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	(*** <b>&gt;</b> ***								
	売上高	5	営業利	益	経常利	益	当期純和	山益	1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3, 000	11. 1	200	0. 7	204	1. 3	137	0. 3	65. 53

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

## ※ 注記事項

(1) 中間財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無② ①以外の会計方針の変更 : 無③ 会計上の見積りの変更 : 無④ 修正再表示 : 無

## (3)発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(中間期)

2026年3月期中間期	2, 200, 000株	2025年3月期	2, 200, 000株
2026年3月期中間期	106, 842株	2025年3月期	114, 169株
2026年3月期中間期	2, 088, 565株	2025年3月期中間期	2, 079, 813株

- ※ 第2四半期(中間期)決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です
- ※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると 判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想 の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注記事項等については、添付資料 4 ページ「業績予想などの 将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

#### (決算説明会内容の入手方法について)

当社は、2025年11月7日(金)に機関投資家及び個人投資家向けの決算説明会を開催する予定です。 当日使用する決算説明資料は、開催後速やかに当社ウェブサイトに掲載及びTDnetに開示する予定です。

# ○添付資料の目次

. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
. 中間財務諸表及び主な注記	5
(1) 中間貸借対照表	
(2) 中間損益計算書	7
(3) 中間キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 中間財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(セグメント情報等)	9
	(1)経営成績に関する説明   (2)財政状態に関する説明   (3)業績予想などの将来予測情報に関する説明   中間財務諸表及び主な注記   (1)中間貸借対照表   (2)中間損益計算書   (3)中間キャッシュ・フロー計算書

#### 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1)経営成績に関する説明

当第2四半期の国内経済は穏やかな回復基調が続きましたが、不安定な国際情勢を背景とした原材料価格・エネルギーコストの高騰及び米国の通商政策に伴う国際経済環境への影響もあり、依然として先行き不透明な状況が続いております。一方で、情報サービス産業においては、企業の競争力強化、生産性向上のためのDX関連投資の意欲は引き続き高い状況にあり、「生成AI」の普及が進み、AIを活用したDX市場は拡大しております。

このような状況の下、当社は2023年に策定した中長期目標の第1フェーズである2024年3月期から2026年3月期までの3カ年を対象とした「MISSION 2025」の最終年度にあたるなか、「MISSION 2025」で掲げるコンサルティングサービスの持続的な成長を達成し、並行してプロダクトサービスのラインナップを全社挙げて強化するというテーマの実現に向けて事業を推進しております。また、生成AI市場の急成長を背景に、AIエージェント技術の導入と実用化を推進するため、企業向けAIエージェントサービスの提供を開始しております。

コンサルティングサービスでは、技術面においては、生成AI領域の拡大に向けたソリューション作成、Databricks活用によるデータマネジメント領域の強化を進めております。営業面においては、増強した営業組織と新たに設立したプリセールス活動の専任組織による営業強化、生成AIやDatabricksに関する発信強化、協業企業とのアライアンスを活用した受注獲得に取り組んでおります。

プロダクトサービスでは、仕入製品としては製品力に優れ世界的な有名企業で活用されているQUID製品の販売強化、当社オリジナル製品であるレビュー分析に特化したAIエージェント「TDSE KAIZODE」(以下「KAIZODE」)の付加価値向上に取り組んでおります。

AIエージェントサービスでは、最新の生成AI技術を加えたAIエージェントに関するソリューション開発及びデリバリー強化に取り組んでおります。また、ジーデップ・アドバンス社と協業し、「Dify」を用いた生成AIの開発をNVIDIA DGX™ B200のプライベートクラウド上で利用するサービスの提供を2025年6月23日より開始しております。

以上のとおり取組んできた結果、当第2四半期累計期間の業績においては、売上高は、プロダクトサービス及び AIエージェントサービスが順調に拡大した一方で、コンサルティングサービスの新規顧客開拓は改善傾向ではある ものの主要顧客の一部プロジェクトが収束した影響により全体では1,415,967千円(前期比11.9%増)となりました。利益面では、コンサルティング事業強化のための人件費、新設のAIエージェント部門立ち上げに伴う人件費及 び外注費を前期比で増加させことにより、営業利益は42,770千円(前期比47.2%減)、経常利益は46,812千円(前期比40.8%減)、中間純利益は31,477千円(前期比40.2%減)となりました。

## ○コンサルティングサービス

データ経営を目指す企業向けにAIを中心とした統合型ソリューションサービスを提供しています。具体的には、企業のデジタルトランスフォーメーションを共に推進していくため、企業が進める事業戦略に沿う形で、データ活用のテーマ抽出→データ分析/AIモデル構築→AIシステム構築/実装→保守/チューニングに加え、教育まで一気通貫したコンサルティングサービスを提供しています。

#### ○プロダクトサービス

自社および他社のAI製品並びにサービスの製品販売を顧客企業に提供し、サービス利用料ならびに運用・保守料を受領しています。当社独自製品であるレビュー分析に特化したAIエージェントの「KAIZODE」や、海外製品のソーシャルアナリティクスツールの「Quid Monitor」を提供しています。

## ○AIエージェントサービス

最新の生成AI技術を加えたAIエージェントを提供しています。具体的には、業務フローの自動化または効率化できる項目を洗い出すアセスメント、顧客に適したAIエージェントの構築、顧客の生成AI環境の構築を提供しています。また、ノーコードで直感的に生成AIサービスを構築可能な日本語対応のプラットフォームである「Dify」、業務システムと連携し人との対話(自然言語)よりルーティン化された業務を自動化する対話型AIプラットフォーム製品「Cognigy」を提供しています。

#### (2) 財政状態に関する説明

### ① 資産

当中間会計期間末の資産合計は、前事業年度末に比べ49,803千円減少し、2,682,062千円となりました。

#### (流動資産)

流動資産の残高は、前事業年度末と比べ24,985千円減少し、2,440,850千円となりました。これは主にプロダクトサービスに起因する前渡金の22,917千円増加といった増加要因があるものの、法人税等及び配当支払い等による現金及び預金の32,437千円減少並びに売掛金及び契約資産の回収による27,136千円減少等によるものであります。

#### (固定資産)

固定資産の残高は、前事業年度末と比べ24,818千円減少し、241,212千円となりました。これは主に償却資産が減価償却等により8,605千円減少したこと等によるものであります。

#### ② 負債

当中間会計期間末の負債合計は、前事業年度末に比べ68,304千円減少し、454,519千円となりました。

#### (流動負債)

流動負債の残高は、前事業年度末と比べ68,304千円減少し、434,519千円となりました。これは主に前受金が57,856千円増加したものの、納税による未払法人税等の61,617千円減少および賞与支給による賞与引当金の51,121千円減少等によるものであります。

### (固定負債)

固定負債の残高は、前事業年度末から変動なく、20,000千円となりました。

## ③ 純資産

当中間会計期間末の純資産合計は、前事業年度末に比べ18,500千円増加し、2,227,543千円となりました。これは主に配当金の支払いにより利益剰余金が20,896千円減少したものの、当中間純利益として31,477千円を計上したこと等によるものであります。

### ④ キャッシュ・フローの状況

当中間会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は1,923,055千円となり、前事業年度末1,955,492千円と比べ、32,437千円減少しました。当中間会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりです。

#### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果使用した資金は、12,728千円(前年同中間会計期間は27,735千円の獲得)となりました。これは主に税引前中間純利益47,466千円(前年同中間会計期間は78,905千円)によるプラス要因、主に法人税等の支払いによるマイナス要因によるものであります。

## (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果得られた資金は、1,571千円(前年同中間会計期間は6,253千円の使用)となりました。これは 主に敷金及び保証金の一部回収によるものであります。

### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、21,515千円(前年同中間会計期間は20,822千円の使用)となりました。これは主に配当金の支払いによるものであります。

## (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

第3四半期以降については、コンサルティングサービスは、技術面においては、市場が拡大しているAIエージェントを含む生成AIソリューション、データマネジメント領域のソリューション強化、また当該領域に強い人財の獲得と組織変革に、営業面においては、生成AIソリューションに関する発信強化、コンサルティングファーム、協業企業とのアライアンスを活用した受注獲得に取り組みます。プロダクトサービスは、自社製品の「TDSE KAIZODE」の付加価値強化、仕入商品であるQUID製品の販売強化に取り組みます。AIエージェントサービスは、AIエージェントソリューションの充実と展開、体制の強化に取り組みます。

2026年3月期の業績予想については、最近の業績動向等を踏まえ、2025年5月14日に公表しました予想数値を修正いたしました。また、中期経営計画「MISSION 2025」で掲げる達成目標についても修正いたしました。詳細につきましては、本日(2025年10月31日)公表の「業績予想及び中期経営計画の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

※業績予想の数値は、当社が現在入手できる範囲で得られた情報をもとに作成した業績予想であり、実際の業績等は様々な要因により異なる可能性があります。

# 2. 中間財務諸表及び主な注記

# (1) 中間貸借対照表

		(単位:千円)
	前事業年度 (2025年3月31日)	当中間会計期間 (2025年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1, 955, 492	1, 923, 055
売掛金及び契約資産	330, 402	303, 266
仕掛品	<u> </u>	974
貯蔵品	327	143
前渡金	141, 545	164, 462
前払費用	37, 384	48, 711
その他	682	236
流動資産合計	2, 465, 835	2, 440, 850
固定資産		
有形固定資産		
建物	36, 572	36, 572
減価償却累計額	△35, 345	△36, 572
建物(純額)	1, 226	0
工具、器具及び備品	2, 942	3, 172
減価償却累計額	△2, 431	△2, 591
工具、器具及び備品(純額)	510	581
リース資産	1, 344	1, 075
減価償却累計額	△1, 164	△358
リース資産(純額)	179	716
有形固定資産合計	1,916	1, 298
無形固定資産		
ソフトウエア	53, 098	45, 111
無形固定資産合計	53, 098	45, 111
投資その他の資産		
長期前払費用	4, 826	4, 186
繰延税金資産	89, 709	75, 109
敷金及び保証金	74, 220	72, 763
保険積立金	42, 079	42, 388
その他	179	354
投資その他の資産合計	211, 015	194, 803
固定資産合計	266, 030	241, 212
資産合計	2, 731, 866	2, 682, 062

1001			-	-		· \
(単	17	•	_	-	Η	١)
1 = 1	1/.					

	前事業年度 (2025年3月31日)	当中間会計期間 (2025年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	47, 496	61, 840
リース債務	931	1, 522
未払金	26, 476	21, 643
未払費用	35, 117	30, 833
未払法人税等	72, 545	10, 927
未払消費税等	48, 359	30, 741
前受金	169, 299	227, 155
預り金	13, 154	14, 732
受注損失引当金	4,000	600
賞与引当金	85, 444	34, 322
その他	_	200
流動負債合計	502, 824	434, 519
固定負債		
資産除去債務	20,000	20,000
固定負債合計	20, 000	20,000
負債合計	522, 824	454, 519
純資産の部		
株主資本		
資本金	833, 180	833, 180
資本剰余金	333, 912	339, 200
利益剰余金	1, 081, 155	1, 091, 774
自己株式	△39, 981	△37, 387
株主資本合計	2, 208, 265	2, 226, 766
新株予約権	776	776
純資産合計	2, 209, 042	2, 227, 543
負債純資産合計	2, 731, 866	2, 682, 062

# (2) 中間損益計算書

	前中間会計期間	(単位:千円) 当中間会計期間
	刊刊云計朔間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	(自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
売上高	1, 265, 711	1, 415, 967
売上原価	844, 591	925, 289
売上総利益	421, 120	490, 677
販売費及び一般管理費	340, 181	447, 906
営業利益	80, 939	42, 770
営業外収益		
受取利息	153	1, 607
為替差益	_	717
確定拠出年金返還金	672	1, 113
その他	353	685
営業外収益合計	1, 178	4, 122
営業外費用		
為替差損	3, 038	_
その他	0	80
営業外費用合計	3, 038	80
経常利益	79, 079	46, 812
特別利益		
保険解約返戻金		653
特別利益合計	<u> </u>	653
特別損失		
固定資産除却損	174	
特別損失合計	174	
税引前中間純利益	78, 905	47, 466
法人税、住民税及び事業税	27, 566	1, 389
法人税等調整額	△1, 265	14, 599
法人税等合計	26, 301	15, 989
中間純利益	52, 603	31, 477

# (3) 中間キャッシュ・フロー計算書

		(単位:千円)
	前中間会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前中間純利益	78, 905	47, 466
減価償却費	11, 496	9, 911
固定資産除却損	174	
受注損失引当金の増減額 (△は減少)	<u> </u>	△3, 400
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△16, 682	△51, 121
株式報酬費用	10, 962	8, 378
受取利息	△153	△1,607
補助金収入	△100	△100
為替差損益(△は益)	3, 038	△235
売上債権の増減額(△は増加)	24, 356	27, 136
棚卸資産の増減額(△は増加)	285	△789
仕入債務の増減額 (△は減少)	△2, 675	14, 343
未払金の増減額 (△は減少)	△6, 036	△3, 390
その他の資産の増減額 (△は増加)	△61, 277	△34, 455
その他の負債の増減額 (△は減少)	17, 285	34, 540
小計	59, 578	46, 676
利息の受取額	129	1, 362
補助金の受取額	_	100
法人税等の支払額	△31, 973	△60, 867
営業活動によるキャッシュ・フロー	27, 735	△12, 728
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	_	△230
敷金及び保証金の回収による収入	_	1, 457
補助金の受取額	100	_
保険積立金の解約による収入	_	653
保険積立金の積立による支出	△6, 353	△308
投資活動によるキャッシュ・フロー	<u></u>	1, 571
財務活動によるキャッシュ・フロー		
リース債務の返済による支出	_	△591
自己株式の取得による支出	_	△27
配当金の支払額	△20, 822	△20, 896
財務活動によるキャッシュ・フロー	△20, 822	△21, 515
現金及び現金同等物に係る換算差額	△3, 038	235
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△2, 379	△32, 437
現金及び現金同等物の期首残高	1, 792, 432	1, 955, 492
現金及び現金同等物の中間期末残高	1, 790, 053	1, 923, 055

## (4) 中間財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記) 該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) 該当事項はありません。

## (セグメント情報等)

当社は、ビッグデータ・AIソリューション事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。